

市民生涯学習のつどい
& 市民大会 [交通安全・防犯・環境衛生]

会場…アンバーホール
入場料…無料

■2月11日(土・祝)
舞台/10時～16時30分
公民館等で活動する市民の皆さんによる個性豊かなステージ。ダンスや音楽など盛りだくさんでお届けします。
展示/9時～17時
■2月12日(日)
表彰式/13時30分～14時30分
講演会/14時30分～16時
展示/9時～16時30分



記念講演

「住みたい、住み続けたい久慈をめざして」
～人口減少時代のまちづくりのヒント～
講師 藻谷 浩介さん

文化財展

川崎製鉄久慈工場操業終了
50周年記念企画展

「鉄を造る」

◆アンバーホール3階展示室
2月11日(土)9時～17時
12日(日)9時～16時30分

たたら製鉄の時代から、製鉄が盛んに行われてきた久慈地域。昭和42年、川崎製鉄久慈工場が操業を終了し、その歴史に幕を下ろしました。それから半世紀。今、あらためて久慈地域の製鉄の歴史をたどります。



1/乾杯の音頭をとるのんさん
2/歓談する参加者ら 3/小太鼓を叩き、巽町組のメンバーとともにお囃子を披露するのんさん 4/山車組の半てんを着て記念撮影



北三陸久慈市ふるさと交流会

「久慈市の応援団」
交流の輪を広げる

1月14日、東京都内の催事場で「北三陸久慈市ふるさと交流会」を開催しました。同交流会は、首都圏に住む出身者などをつながりを作ること、市の情報発信やふるさと納税に協力する「久慈市の応援団」を獲得し、地域振興につなげることを目的に、昨年に行われて開催。市出身者や北三陸久慈市ふるさと大使など約160人が参加しました。

交流会では、久慈秋まつりの山車組「巽町組」のメンバーがお囃子や音頭上げを披露。勇壮な太鼓と笛によるにぎやかな音色に、会場からは「秋まつり本番は久慈で見たい」という声も聞かれました。また、女優のん(本名・能年玲奈)さんがゲストとして訪れ、参加者と交流。巽町組のメンバーとともに、お囃子を奏しました。

のんさんからメッセージ

台風のあと、久しぶりに久慈市におじゃましましたが、皆さんやさしく、暖かく迎えてくれて。被害を受けたお店も再開されていると聞いて、うれしく思っています。私自身、久慈市の皆さんにはすごくお世話になったと感じているので、少しでも元気になってくれたらと思います。こうして活動しています。

「ふつうの生活」の中で、楽しいこと、幸せを見つめられる。皆さんにとっても、今年がそんな年になってほしいと思います。2017年、私は酉年で年女です。代表して元気を届けられるように頑張ります。



高校生が、自分たちの手で作り上げたクリスマスコンサート。出演した小学生・高校生の皆さん



中高生「まちなか」に彩り

北三陸くじ冬の市

12月23日、中心市街地で今シーズン2度目の北三陸くじ冬の市が開催。会場では中高生らが企画したイベントも行われ、若い力が「まちなか」に彩りを添えました。



上/土風館で行われたクリスマスコンサート
中/サバサンドを販売する大川目中の生徒ら
下/「こどもふゆのいち」のアトラクション

大川目中学校3年生の生徒19人は、総合的な学習の一環として久慈市の観光誘客に向けた活性化策を考えてきました。この成果として開発した「当地グルメ「サバサンド」」を販売。出店したテントの前には長い列ができ、用意した限定100個は瞬く間に完売しました。販売を担当した中村悠斗さんは「久慈の魅力が伝わると、3年間取り組んでみたい。たくさんの人が並んでまで買ってこれ、うれしかったです。『久慈の名物に』という思いで開発したので、もし商品化したいという声があれば、ぜひ協力したいと思います」と話しました。高校生が地域おこしグループ「インスパイア」が主催し

た「まちなかクリスマスコンサート」は、100人以上が来場し、通路に立ち見ができる盛況ぶり。さまざまな世代をつなぎ、街なかのにぎわい作りのきっかけにしようと、市内の小学生を募り、合唱の練習を重ねてきました。コンサートでは、久慈高校マンドリン部の演奏や音楽部の合唱、吹奏楽の演奏などに続いて、出演した高校生らが小学生と一緒にクリスマスソングを合唱。会場いっぱいに響きわたる歌声に、大きな拍手が送られました。この日は、子ども向けの遊びを集めた「こどもふゆのいち」や海女文化を紹介する「海女小屋体験」なども行われ、多くの人出でにぎわいました。

台風災害からの復興を後押し!

「この世界の片隅に」チャリティ上映

冬の市に合わせて、あまちゃんハウスでまちなか映画祭(久慈商工会議所主催)が開催され、のん(本名・能年玲奈)さんが主演声優を務める映画「この世界の片隅に」(片瀨須直監督)が無料上映されました。台風10号で被災した市民らを応援しようと企画され、上映会には片瀨監督も駆けつけトークショーを行いました。

「久慈はのんさんを知るきっかけになった場所で、この映画のふるさとのひとつ」と話す片瀨監督。「台風被害の際も何かしなくてはという思いがあり、今回久慈で作品を見てもらうことができよかった。震災からの復興を描いた映画のように、復興に向け乗り越えていく気持ちを持ってほしいです」と話しました。



トークショーを行った片瀨監督